

次期教育振興基本計画策定検討委員会（第6回）議事録

1 日 時

令和元年5月9日（木）午後1時13分～午後2時40分

2 場 所

教育委員会会議室

3 出席者

【検討委員会】

高妻委員長，河内副委員長

牛島委員，門田委員，楠下委員，長田委員，西村委員，原委員，鈴木委員

【事務局】

星子教育長，小西教育次長，深堀理事，

藤田総務部長，西村教育環境部長，竹中教育支援部長，木下指導部長，梶原教育センター所長，

吉谷総務課長，浦塚教育政策課長，中川原教職員第1課長，篠原職員課長，松浦給食運営課長，

牟田生涯学習課長，齊藤学校指導課長，内田生徒指導課長，大洲課長（学校教育企画担当），

竹内教育相談課長，野口発達教育センター所長，須佐研修・研究課長，石橋研修・研究課長

4 議事録（要旨）

事務局から，開会宣言に続き，資料の確認を行い，議事進行は高妻委員長が行うことが連絡された。

委員長から，資料及び議事進行の簡単な説明がなされた。また，最後の回となることから，議題2の後に，委員それぞれから，これまでの検討にあたって，感想や今後期待することなど，まとめの言葉をいただくことが提案され，了承された。

事務局から，パブリック・コメントの実施結果及び対応案について説明を行い，会議参加者による意見交換を行った。

（以下，発言順）

○ 委員長

- ・ まずは，資料1ページの計画全体に対する意見について，自由に発言いただきたい。
- ・ 例えば，資料4番目の意見に対して，対応案に，教員が疲労や心理的負担を過度に蓄積して心身の健康を損なうことがないようにという記載は，とてもいいと思う。教育委員会として

サポートする姿勢を示しているとは思う。一方で、ここに個別具体のプランを書くことはそぐわないかもしれないが、悲鳴に近い現場の声になにか届いていないのではないかと感じる。これはやむを得ないことだろうか。

○ 事務局

- 原案 19 ページの、教育委員会事務局の責務の内容を記載しており、本計画においては個別具体の事業を記載するものとしていないことから、対応案では教育委員会事務局が覚悟をもってしっかり取り組んでいく決意表明という形で受け止めている。
- 一方で、教員の負担軽減に繋がる個別具体の取組みについては、毎年の施策の推進において、例えば、共同学校事務室の全市展開であるとか、様々な専門スタッフの充実を図ることなど、取組みを進めている状況にあり、毎年の取組みの中で示していくものと考えている。

○ 委員長

- 了解した。教育委員会事務局の責務と学校における働き方改革については、学校の組織的な側面を意識しないといけない。
- チーム学校も前面に出てきており、学校マネジメントとも関連するが、全員が全員、過重な負担を感じているわけではなく、一部の先生たちにしわ寄せがきている。
- 民間でもある話だと思うが、仕事のできる先生にどんどん仕事が偏り、一部の先生たちに過重な負担がかかっていることについて、教育委員会事務局として意を配るような、そういう表現が入ってくると、学校から教育委員会事務局への信頼感がまた増すのではないかと思うが、いかがか。この点については、学校の先生からもご意見をいただきたい。

○ 委員

- 委員長の意見は、そのとおりだと思う。
- ただ、教育委員会事務局が苦慮している部分もよくわかって、先程出た共同学校事務室では、いわゆる先生、教諭にとってはとてもありがたいことだけど、その裏返して、事務が全部そちらにいったことで、事務職員の負担が増えるのではないかという意見もあった。
- そのような点は、たぶん書きにくいだろうと推察できるので、先程言われた個別の取組みについて、若干の表現があるとありがたいと思う。

○ 委員長

- 繰り返しになって恐縮だが、教員が疲労や心理的負担を過度に蓄積して心身の健康が損なう

ことがないようにということで、表現を工夫いただけたらと思う。

- 次に、資料2ページ以降、福岡スタイル、施策展開に関する意見34件について、非常に細かい意見から、財政措置を伴うような様々な意見が出ているが、いかがか。

○ 委員

- 1学級あたりの人数に対して、かなり意見があったと思う。OECDの調査でも、世界平均から見て日本はかなり多くて、こういった意見が市民から寄せられるのはある意味で当然なのかなと思っている。
- 一方で、日本全体で見た時には、福岡市は多学年でこの35人以下学級を実現されていて、かなり前を走っていると私は認識しているが、だとするとこの意見を受けて、検討しますというのは、少しもったいない気がする。
- 先程の教員の多忙化とも関係してくるところでもあり、こう実現しますとまではいなくても、この意見を踏まえたうえで、検討をよりもう一步進めるとか、戦略的に少し厚く記載することで、福岡市の教育が手厚いものへと繋がっていくのであればと感想レベルではあるが感じた。

○ 事務局

- 確かに本市では、35人以下学級を小学校4年生まで拡大して実施している。
- 予算の関係などいろんなことを想定する必要があるが、より実践的な体制ということで、限られた人的資源を、より効果的に配置できるよう、今回、この計画の中に示している。
- 具体的には、チームティーチング等を行っていく少人数指導や一部教科担任制について、より学校の実態に応じた配置ができる考え方の計画になっており、そういう意味で、学校の実態に応じた教員の負担軽減にも、そこからつなげていきたいと考えている。
- 35人以下学級の効果については、国もはっきりした検証結果を出していない状況ではあるが、本市としては、改めて35人以下学級について検証していくことも含め、学校の実態に応じた実践体制が、より有効なものとなるよう検討していく旨を原案に記載しており、前向きな検討と捉えている。

○ 委員長

- 了解した。
- 資料2ページの9番、全市で何パーセントという目標設定はどうかという意見に対して、市

全体の学力の底上げを図る指標として設定しており，原案どおりとされている。

- 原案どおりとすることはいいと思うが，非常に家庭も多様化している中での意見でもあり，より意見を踏まえた考え方の記載としたほうが，意見を大切にされていると感じられるのではないかと思う。

- 委員長
 - 11 番は意見に対して，自然や動植物と触れ合うなど，という言葉を入れる修正案だが，これについてはいかがか。

- 全委員
(「なし」の声あり)

- 委員長
 - それでは，引き続き他の意見について，いかがか。
 - 施策5特別支援教育の推進で 20 番の意見，ここも改善のための切実な声だと思う。普通学級より手厚い人的配置が最優先だという意見に対し，教職員定数の充実について，今後も国への要望を行っていくとの対応案だが，どのように要望していくのかを丁寧に記載したほうがいいのではないか。

- 事務局
 - 子どもたちの実態や特性を踏まえた上で，例年，定数の見直しを要望している。

- 委員長
 - それは，これまで毎年，いわば機械的に要望し続けていて，それが実現してもらえないという，やや受け身的な形になっているのではないかと思う。これまでとは違う要望をしたいというような意味合いが込められると，より対応として明確な姿勢が出せると思うので，検討いただければと思う。
 - その他，高校教育，読書活動，チーム学校，教職員の資質・能力の向上・活性化への意見については，いかがか。

- 委員長

- では、ちょっと説明が追加してあれば、よりわかりやすいところがある。資料7ページの32番に、業務改善プログラムという言葉が出てくるので、5ページ24番のCAPSと同じように※印で簡単に説明を加えてもらおうとよい。
- 事務局
 - 業務改善プログラムは、教員の負担軽減のために、長時間労働の解消、業務改善を一層促進するために教育委員会事務局と学校が一体となって取り組む方策等をまとめたものであり、その簡単な説明を盛り込むよう検討したい。
- 委員長
 - その他、資料の最後までについて、いかがか。
- 委員
 - 施策15 教員が子どもと向き合う環境づくりに関して、意見を見ると、やはり、先程からも出ているように、教員の多忙化がキーワードになっていて、先生がなかなか子どもたちと関わる時間がとれないんじゃないか、そのために、35人以下学級であるとか、教員数の増という意見はある意味で、もっともっと子どもたちと向き合う時間を作って欲しいという願いかとも思う。
 - 原案においては、教員が子どもと向き合う時間の確保ができているかという評価指標で、先生方への調査で、現状54.1%を今後65%を目標としている部分、これが数字的にもっと上がってくればと思う。
 - 32番から35番の意見への考え方で、指導に専念できる環境づくりを推進してまいりますとあり、その通りとは思いますが、環境づくりという言葉は少し抽象的でもあるので、例えば、時間を作るとか、ちょっと一歩踏み込んだ記載があればという印象を受けた。
- 事務局
 - 学校における働き方改革については、原案にも記載しているとおり、重要な課題と認識していることから、校務の情報化による事務の効率化、専門スタッフの配置、教員の支援体制の充実、市立学校の教職員の業務改善のための業務改善プログラムによる具体的な業務の廃止や軽減など、具体的に取り組んでいくことを記載している。
 - そういった事業をより強く教育委員会事務局として推進してほしいという意見と受け止めて

おり、今後も引き続き、取組みを推進していく考え方を記載している。

○ 委員長

- では、全体を通して、いかがか。パブリック・コメントに対する対応案、考え方についての議論はこれでよろしいか。

○ 全委員

- (「なし」の声あり)

○ 委員長

- 今回出た意見を参考に、また事務局のほうで検討いただければ、幸いである。
- それでは、会の冒頭に案内したとおり、委員の皆様から、これまでの検討委員会を振り返っての感想や、今後、期待することなど、まとめの言葉をいただきたい。

○ 委員

- 学校が抱える課題が、複雑化、高度化している状況の中で、どういうふうに、どういう計画になると今の学校が、もっとスムーズに動いて、子どもたちの未来がなお明るくなるのだろうかと考えさせていただいた。
- 日本は教育機関に対する公的支出が少ないので、どうしても世界、OECDなどと比べてもかなり低いので、そこにどうしても限界があって、ある程度は各自治体で工夫して対策を立てるわけだが、やっぱりそこに様々な制約なり、限界があるなというふうに感じている。
- そんな中でも福岡市では、試行錯誤しながら、例えば新しい取組み、35人以下学級や、海外にルーツを持つお子さんの支援、日本語指導教諭も取り入れて新しいことに挑戦して、一步一步進もうとしていることを、今回の議論の過程を通して、肌で感じる事ができた。また市民の方々の意見もそういうことを踏まえた上で、前向きな意見もたくさん出されているという意味では、こうやって、議論を積み重ねて進んでいくしかないと感じた。
- なかなか理想と現実の狭間で難しいこともたくさんあって、やりたいけどできない、書けないこともたくさんあったと思うが、試行錯誤をしながらもがける、もがいていることが重要で、私も福岡市民だが、福岡市民であって良かったと思っている。
- 私自身も教育に関わる者として、福岡市の教育がより充実するように微力ではあるが、教員養成や教員研修等で何らかの発信等をしていきたいと感じた。

○ 委員

- 私は民間企業からの参画だが、学校を卒業し、教育の場を離れて社会に出ること、働く場が人生においてすごく長い時間を占めるので、雇う側から子どもたちにこうなって欲しいという意見が言えればと思い参画した。
- キャリア教育で民間企業や社会人が参画する意味は相当あって、中学や高校で出前授業等をやっているが、そういう機会をもうちょっと参加しやすく増やせるような仕組みがあればいいと思う。いろんなチャンネルがあり、そういうことをやりたい民間の社会人も多いと思う。働くことを伝える職場体験だけじゃなく、働く人から見て、どういう子どもに育ててほしいか、そういった意見も聞きながら、こういう教育の計画に生かしてもらえればと思う。
- ICT の活用に関しては、これは予算ありきの話なので、私から検討委員会の場で意見をいうことは少なかったと思う。あまり言えなかった部分ではあるが、今年度、1億5千万円近くの予算がついたと聞いて、すごく前進したと思った。
- ICT はもう当たり前のインフラで、特別なことではまったくない。ICT を教育の中に取り込むことは、そのまま、働く環境にも近づくことを意味するので、先進的なことでなく、やっとならぬ間に追いついたかと感じている。もっと具体的に進めていってほしい。能古小中学校のICT に関して、検証のやり方だとか、具体的に変えていくことを前提に、さらに充実していただければと思う。
- 民間の立場からするとインフラの先進性にギャップを感じる、子どもたちはここまで知っているのに、まだこんなことを、例えば、タブレットを導入しますなんてことは、もうタブレットなんて当たり前のことなので、世の中がもっと進んでることをもっと知ってほしいと思う。

○ 委員

- 福岡市 PTA 協議会からの参加で、全6回、短かったような長かったような、今回この会議に参加して、大変勉強にもなった。
- パブリック・コメントで市民や親と距離を感じるという意見では、我々も、それは繋がらないといけない役目とと思っているので、これまで以上に努力していきたいと思っている。こうして、これだけの大人が、子どもたちのために力を注いでいることは、保護者の方にも伝えたい。
- また、先程、副委員長が言われたように、資金に関しては、本当に限界があると思うので、

その点はどちら側からも国にお願いしていきたいと思っている。

- PTAに関わることで、いろんな機関の方と知り合いになり、いろんな話をしているが、私自身も子どもたちと関わっていく中で、やはり手は差し伸べたいけど、いろんな機関の都合もあって、本当にスクールソーシャルワーカーにしても、支援員にしても、いろんな方が関わっていただけるよう、そこも、もっともっと充実させていくためには、保護者もやっぱり力を出さないといけないと感じた。
- 子どもたちの未来のためなので、これからも保護者と一緒になって、そして保護者ももっともっと勉強できるような環境を我々も作っていききたいと思っている。

○ 委員

- 小学校を代表して出ているが、小学校でも校長会で、ともに学びよりよい未来を創り出す子どもを育てるため、学校経営という形で、この言葉を前面に出しながらがんばっていこうと話をしている。
- 人材育成の面で、よく若手の先生がたくさんいることが課題のほうに出されることが多いが、先程のICTではないが、一方で、若手の先生がたくさんいることが、未来に向けての強みであるとも思っている。
- 人材を増やすことに関しては、難しいことはわかっているが、タブーではなく、せっかくICTも導入される、そのことによって生まれてくる時間や人材をまた別の場所で生かすとか、そういうことができればいいと思うので、今後もよろしくお願ひしたい。

○ 委員

- 中学校を代表して参加しているが、働き方改革についていろいろ手立てが打たれる中、私たち管理職は、教員の意識改革をしていく必要があると思っている。
- 例えば、定時退校日で早く帰る、ならばその前までにこれをする、そういうところをもっともっと私たちが、教職員に対し、指導や話をしていかなければならないと思う。
- この基本計画をもとに、今後も教育委員会と学校が連携して、教員、児童生徒も含め、資質の向上をめざしてがんばっていききたい。

○ 委員

- 私たちの団体では、昨年末から今年の末にかけて、子どもの権利委員会、日本として取り組んできた報告に関する総括所見が何年ぶりかの発表で、子どもの課題に取り組む団体として

ちょっと通知表を受け取るような気持ちで動向を見ていた。その中で、いろいろできている部分もあれば、まだこういうところが、例えば、子どもにとって過度な競争的社会という言葉を使われていたり、諸外国に比べて日本の子どもたちの自己肯定感の低さであるとか、全体の自殺率が減っている中で、若者の自殺率だけが増加傾向にある部分などが指摘されている。

- そういったところは、どこか一つだけを改善すればよいものではない。特に子どものクオリティ・オブ・ライフに関しては学校生活、学校での体験がとても大きな影響を占める部分だと思うので、是非いろんな立場の方が一緒に考えて、子どもにとってどういうことが一番いいのか実現できる取組みを是非続けていただきたいと思う。

○ 委員

- 今回、いじめ不登校の未然防止・早期対応という点で参加したが、その中でもスクールソーシャルワーカー活用事業の拡充は、私個人も福岡県スクールソーシャルワーカーの代表として、また福岡市教育委員会のスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーとして、とても感謝している。
- 特に、原案にも記載のとおり、全国初で、全中学校区へのスクールソーシャルワーカーの配備、さらに7名の正規職員としてのスクールソーシャルワーカーが出たことは、繰り返しになるが、東京、大阪にもない全国初の取組みでとても注目されると思う。
- ただ、あわせて注目される部分として、今後、成果が問われることも大きなところかと思う。そういった意味で、69名のスクールソーシャルワーカーのスキルアップに関し、スーパーバイザーとして、このいじめ不登校等の未然防止・早期対応が本当に図っていけるように、今後とも協力していきたいと考えている。

○ 委員

- 私は、自治協議会の7区会長会から出ているが、我々地域としては、いかに生徒が安全に登下校できるか、それと子どもたちが地域の行事などに対して参画してもらうことができるかということ、今日も午前中、春吉小学校でG20の特別授業があり、私も参加したがとてもいい授業だった。我々商売人プラス地域としては、学校をいかに手伝い、学校をいかに円滑に地域で協力をしていくかに重点を置いている。
- 春吉校区では、昨年、校区内の通学路に20台の防犯カメラをつけた。地域として子どものために安全安心に通学でき、勉強してもらう。勉強は先生方がプロとしているので、それ以

外のことは我々ができるのではないかと思って取り組んでいる。

- それと、キャリア教育は、私が柳橋連合市場の理事長をしており、春吉中学校で当時の先生方と一緒に取り組み、一番先に始まった。今でも柳橋連合市場にはいろんな学校から、年間相当数来ており、校長や担当の先生も来ている。そこで、教育委員会事務局に対しては現場に来たことがありますかと私は言いたい。基本計画として文章や数値化されて素晴らしいと、計画に書いていることが全部生かされればいいと思うが、やっぱり、文章や数字だけじゃなくて、体験や経験こそが、子どもたちの一番の教育になると思っている。
- また、PTAとも私は関係しており、今のお父さん、お母さん方は共稼ぎが多い、そのため、PTAがやる行事も少なくなってきた。パブリック・コメントで保護者から距離を感じますと意見が出ていたが、保護者がPTAを通して学校と協力していれば、学校の先生方がいかに苦労してあるか、多忙であるかがはっきりわかると思う。
- やはり、なんでも経験・体験、それに勝るものはない。そうやって、当時一緒に取り組んだ先生方とは、OBになった今でも、社会の一員として付き合いが続いている。そういったところで、教育委員会も大きく視野を広げることをお願いしたいと思う。

○ 委員長

- 皆様のおかげをもって非常に立派な原案が出来上がったと大変うれしく思う。私からは時間もあまりないので、簡単に3点ほど、申し上げたい。
- 一つ目は、パブリック・コメントにもあるように、市民や親との距離があるのではないかと、先生との距離があるのではないかという点。この基本計画が、教育委員会の一つの行政文書として上からおりてきた、非常に遠い文書だということにならないよう、是非活用していただきたいと心から願う。活用するためには、徹底した広報が必要になってくるので、折りに付け、教育委員会から各学校や市民の方々へ、こんな計画が出来たので、ここはこう活用してほしいということを積極的に促していただきたい。
- 二つ目は、こういった行政文書、計画の中には、様々な形で「支援する」という言葉で丸められることがとても多い。ただ、この「支援をする」と言ったときに、学問的に言うと、お金を与えるのも支援であり、助言を与えるのも支援であり、見守るのも支援である、つまり自立性を促すような支援と、支援を提供する側が、ようは強制的に正しい方向、望ましい方向に促していくこと、これも一つの支援なので、これからその言葉一つを使うにあたって、どういう支援をイメージされるのか、発信する側と受ける側のイメージが出来ただけ沿うような形での言葉の使い方を意識してもらいたい。

- 最後に、令和元年の6月に策定となるこの基本計画であるが、6年後にまた、リニューアルを控えることとなる。6年後ここにいるメンバーがどれだけ残っているのか、甚だ見通しは立たないが、1年1年検証をしながら、次の第3次計画に反映できるような、後の世代への手掛かりを毎年度残していただきたい。一つ目に重なるが、こういう計画というものは作って一安心となることが多い。来月からスタートになるので、是非活用を促してもらいたい。まとめの言葉というより教育委員会へのリクエストになってしまったが、策定に携わった関係者の方々、本当にご多忙の中、立派な計画を作ってください、心より敬意を表したい。

それでは、進行を事務局のほうにお返しする。

○ 事務局

- 昨年度から6回にわたり開催してきた本検討委員会も本日で最後となる。教育委員会を代表し、教育長より皆様へお礼のご挨拶を申し上げます。

○ 教育長

- 令和という新しい時代のはじまりに、新しい基本計画が決まることは、非常に感慨深い。今思い浮かべれば一昨年の夏頃、初めてこの計画について、教育委員会事務局の幹部で話をし、それから熱い議論を交わしながら、また、教育委員とも20回以上にわたり、本当に議論を尽くしてきた。そして、議会への報告もしてきたところである。
- この計画も、次の6月議会で報告を行って最終的に完成となる。先程、事務局から説明した参考資料に令和元年度の事業を示しているが、こうして毎年毎年の予算をしっかりと確保して、福岡市の子どもたちの幸せのために、しっかりと取り組んでいきたい。
- 委員の皆様には、これからも是非、子どもたちと関わる主体の代表者として、ご支援を引き続きお願いしたい。
- 最後に、ご多忙の中、本検討委員会にご参加いただき、貴重なご意見をいただいたことに対し、心からお礼申し上げます。

5 閉会

事務局から閉会の宣言がなされ、散会した。